



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2012-2013年度 R I 会長 田中 作次

●クラブテーマ「調和・Balance」●



第2590地区 ガバナー
露木 雄二

- 会長 飯田 泰之
- 会長エレクト 伊東 英紀
- 副会長 山田 正憲
- 副会長 吉田 隆男
- 幹事 西山 潔
- 副幹事 山本 芳弘
- 会計 朝日 達夫
- 副会計 金森 欣一
- S A A 横溝 亘
- 副 S A A 矢野 修二
- 副 S A A 河野 明光
- クラブ会報 森 永 健



写真提供 小池将夫会員

事務局 ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和51年5月29日
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

2012-2013年度 第29週報 No. 1776 2013年(平成25年) 2月15日 第1776回例会記録 2月22日発行

司会 山本 芳弘 副幹事

誕生日祝 河野 明光 会員 (2月15日)

点鐘 飯田 泰之 会長

斉唱 「それでこそロータリー」

四つのテスト 長井 章 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 村橋 真理 様 (ゲストスピーカー)

ビジター紹介 横浜北R.C 山村 信一 様



本日〈2月22日〉のプログラム

- ◆ 斉唱 「手に手つないで」
- ◆ 献立 幕の内弁当
- ◆ 卓話 「スリランカ訪問の報告」

国際奉仕委員会 委員長 白鳥 厚夫 会員

結婚記念日祝

江森 国一 会員 (2月17日)



2月15日	9件	24,000円
本年度累計		1,414,000円

出席報告

竹山 洋 出席委員長

会員総数	54名	(37+17)名	
出席会員数	42名	(29+13)名	
出席率		86.00%	
ゲスト	1名	ビジター	1名
前回補正後	92.16%	前々回補正後	91.11%

会長報告

飯田 泰之 会長

・2月度定例理事会報告

幹事報告

西山 潔 幹事

・本日、例会終了後にクラブ協議会を開催致します。

場所 ジュビリーⅢ

・先週に引き続き、2013-14年度のロータリー手帳の注文申込書を回覧致しますので必要とされる方は名前を明記願います。

スマイルボックス

矢野 修二 副SAA

河野明光君 誕生日をお祝い頂き、ありがとうございます。団塊の世代もいよいよ「爺(じい)」集団になって参りました。

江森国一君 結婚記念日のお祝いをありがとうございます。思えば33年前と何も変わっていません。良いことなんではないですか？

飯田泰之君 本日のゲストスピーカー村橋真理様、ようこそいらっしゃいました。卓話、よろしく願います。

山本 登君 本日、所用にて早退致します。

西山 潔君 ①天野さん、大変お世話になりました。②村橋様、本日の卓話、よろしく願致します。

山田正憲君 村橋真理様、本日の卓話、よろしく願います。

茂木知子さん ~チャック問題PART. 2『元気だね』~同窓会で、同級生I君と話していると先輩が近づいてきて、“I君、相変わらず元気だね”と言いました。I君は“そんなことないですよ。糖尿病ですから”と言うと、“違う、下の方だよ”。見るとチャックが全開。“太ったから自然に下がるんだよ”と言いながら上げていました。

白鳥厚夫君 村橋真理様、本日の卓話、お世話になります。楽しみにしています。

小山市康君 村橋真理様、ようこそいらっしゃいました。本日の卓話、よろしく願います。

卓話**「イスラエルとパレスチナの高校生対話交流事業」**Peace Field Japan 村橋 真理 様
(紹介者 国際奉仕委員長 白鳥 厚夫 会員)

Peace Field Japan (PFJ) は、イスラエル、パレスチナなど紛争地域の青少年を対象に、日本から平和のフィールドを広げる活動を行っています。2004年にNPO法人として設立され、2007年からは、“絆” KIZUNAプロジェクトとして、イスラエル、日本、パレスチナの青少年の対話交流プログラムを山梨県小菅村で毎夏実施しています。2012年8月までに、3地域から119人の青少年が参加しています。

“絆” KIZUNAプロジェクトは、三地域の青少年が日本の緑豊かな山里で2週間の共同生活を行い、他の地域の人たちの暮らし、文化、伝統に触れることを通して、文化の違いを越えてお互いを理解しあい、絆を築き、平和な地球にするためのプロジェクトです。

まったく進展の兆しが見えないイスラエルとパレスチナの和平交渉に、双方の社会にはあきらめムードが広がる中、パレスチナ人は

占領による様々な制約によって、多くの人たちが毎日の生活に困っています。昨年の11月に、ガザ地区から飛んで来るロケット弾への報復として、イスラエル軍がガザを空爆したのは記憶に新しいところですが、このような攻撃の繰り返しのたびに双方に犠牲者が出ています。

真の平和を達成するためには、お互いの信頼に基づく話し合い、歩み寄りが必要ですが、お互いに不信感を募らせ、平和からますますかけ離れていっているのが現状です。1993年のオスロ合意の後、イスラエル、パレスチナ地域では、お互いの行き来が制限され、特に1990年代以降生まれた子どもたちの世代は、相手側に暮らす人に会う機会がありません。イスラエル人にとってのパレスチナ人はテロリスト、パレスチナ人にとってのイスラエル人は兵士か入植者というイメージでしかなく、パレスチナの若い世代は、イスラエル人への怒りや憎しみを募らせ、イスラエルの若い世代は、壁の向こう側のパレスチナ人を意識することがなくなっています。

この“絆” KIZUNAプロジェクトは、現地ではお互いに会うことが難しい若い世代に、現地から離れた場所で出会い、相手への理解を深めるとともに、持続可能性をテーマにした様々な体験活動を共有することで、未来の社会に貢献する人材を育成することを目指しています。相手と絆を紡いだ青少年が、そのつながりを大切にしながら、本当の意味での平和な社会の実現に貢献してくれるものと期待しています。これまでの参加者たちは、“これまでの人生で一番の経験だった”、“多くのことを学んだので自分とコミュニティの将来に役立てたい”と感想を寄せています。

2013年のプログラムは、8月11日から23日まで、山梨県北杜市小菅村において行うことにしています。今年も、参加者たちに有意義な体験の機会を与えられるよう、皆さまのご支援を頂きたい、よろしくお願い申し上げます。

2012-13年度 11月～2月 テーブルミーティング報告

テーマ「ニコニコの意味と使い道について」

【第1テーブルミーティング】

平成24年12月13日（木） 「保和尊 ～ポワソン～」にて

テーブルマスター：天野 公史 サブマスター：中野 真理

ニコニコの趣旨について、「自分の楽しかった事や祝い事等があればその際に出して下さい」との確認が行われました。

現在のニコニコについては、「競争になってしまっている側面もある」とのご指摘がありましたが、ニコニコが沢山集まること自体は悪いことではないので、ニコニコは競争ではないことをわかっておくことが肝要とお話もありました。また、現在、ニコニコは「奉仕会計」になっていることが確認され、かつてのガバナーは帳面等までを見て様々なご指摘等されていたとお話もありました。そして、現在のニコニコの集計額や繰越額について情報が交換され、これらは全て神奈川県ロータリークラブのメンバーの努力の結果であることが確認されました。

最後に、ニコニコの名称について、「現実的には楽しいこと等そう頻繁にある訳ではない」というご指摘がありました。そこで、今後は、ニコニコではなく「ツイッター」や「つぶやき」のような名称にする方が実情に合致し、かつ、メンバーも貢献しやすいのではないかとご提案もありました。

当日は、終始和やかな雰囲気ではありましたが、ニコニコについて議論が盛り上がり、大変有意義なミーティングでした。

【第2テーブルミーティング】

平成25年1月16日（水） 「和膳 結」にて

テーブルマスター：植田 清司 サブマスター：白井 康夫

《討議内容》

<スマイルボックスについて>

1936年大阪ロータリークラブで初めて実施されたロータリー特有のもので会員・家族・事業所等の慶び事、お祝い事をニコニコしながら披露し喜びを分かち合い、また失敗したり、迷惑をかけた時もユーモアたっぷりに披露し、例会を賑やかさせて親睦を増進し、集まったお金は主として奉仕活動に使われる。そこで、我がクラブでは、どのように扱ったら良いのか討議致しました。

<いろいろな意見>

- 会員の中には特に新しい会員には、知名や理解が低いのでは。
- 集まったお金は奉仕会計に入れて一般会計には入れない。当クラブでは奉仕会計に入れている。
- 強制は出来ない、また、してはいけない。でも、会員に理解度が高まるようアナウンスが必要なのでは。
- 我がクラブは毎年220～230万円集まるのは、すごい事。
- 千円札でなく、小銭でもいいのでは。
- 外国でメーキャップした時、ポケットにある小銭をボックスに入れていた。
- 5年ごとにある記念行事の時など、予算をたてて計画的に使用する。
- 皆の寄付なので、皆で決めて使用する。
- 集めたお金の使用に会員へのサービスや還元が少ないのでは。活用が大事だ。
- 活用方法は理事会で検討してもらう。

【第3テーブルミーティング】

平成25年2月7日（木） 「関内本店 月」にて

テーブルマスター：渡邊 淳 サブマスター：高瀬 伸一

2月7日木曜日18時より、「関内本店 月」において「ニコニコの意味と使い道について」をテーマに第3テーブルミーティングを開催致しました。何かと行事の多い時期にもかかわらず、飯田会長以下16名のメンバーにご参加頂きました。石川パスト会長より、テーマに添ったお話しも頂き、「ニコニコ」への意識も高まった事と思います。和やかでフレンドリーな楽しいテーブルミーティングとなりました。

第三回クラブ協議会

2月15日（金）例会終了後、第三回クラブ協議会が開催されました。

各委員長より委員会の進捗状況について報告がなされました。



ロータリーニュース

平和フォーラムでアウンサンスーチーさんに平和賞を授与

1月25～27日、ホノルル（米国ハワイ州）で開催されたロータリー世界平和フォーラムにて、ミャンマーの民主化運動指導者で、ノーベル平和賞受賞者のアウンサンスーチー氏が基調講演を行い、同氏に対し、平和で非暴力的な方法で民主主義を実現した長年の功績を称え、「ハワイ平和賞」が授与されました。

20年間の自宅軟禁の末に2010年11月に解放された同氏は昨年、ミャンマーで民主化を推進する野党のメンバーとして連邦議会議員に選出されました。

基調講演の中で同氏は、絶対的な平和の達成は困難ではあるが、それを目指して進まなければならないとし、人権を保証するには民主的な体制が必要であると訴えました。

「私たちが欲する平和とは、恒久的な平和です。若い人たちに平和な国家構築の仕事を担ってもらえるよう支援する必要があります。前に進むためには、若い人たちの力が不可欠です」と述べた同氏は、平和構築における若者の役割の重要性にも触れました。ホノルルでの平和フォーラムは、平和プロセスへの若者の参加に焦点を当てたものです。

若い人たちの参加

田中作次R I会長が今年度企画した3回の平和フォーラムの2回目となったホノルル平和フォーラム（1回目は昨年11月にベルリンで開催されました。3回目は5月17～18日に広島で開催されます）には、1,800人以上のロータリアン、ロータリー学友、ロータリー

の平和プログラムの支援者が集いました。

このフォーラムは、「平和にいたる緑の道」をテーマとし、平和推進における環境保全の重要性に焦点を当て、平和宣言も採択されました。

田中会長はフォーラムで次のように述べました。「ロータリーは教育、人道奉仕、若者とのつながりを通じて平和を構築しています。末永く続く平和を実現するためには、新世代の若者、その次の世代の若者に参加してもらい、ロータリーの平和構築活動を未来へ継承していけるよう彼らを支援する必要があります。健全な環境があつてこそ、私たちは自分の可能性を最大限に生かすことが出来ます。基本的ニーズが満たされれば、紛争の原因も少なくなります。紛争に資源を費やしていない人々や国は、その分みんなの利益になることに対して資源を利用出来ます」

ルイス V. ジアイR I 元会長が招集者を務め、3回のフォーラムの開催地は田中会長が選びました。その理由として、ベルリン、ホノルル、広島はすべて、第二次世界大戦によって大きな被害を受けた場所であり、現在は国家間の持続可能な平和の力を象徴しています。

「第二次世界大戦後に育った私は、平和の重要性を目の当たりにしました」と田中会長。「平和構築を実現するのは一生かかる仕事です。毎日、世界中の34,000のクラブが、支援を必要としている人たちにきれいな水、医療、教育、そして希望をもたらすことで、より平和な世界の実現に努めています」

本で平和を構築する

ロン・バートンR I 会長エレクトは、このフォーラムに対するコメントの中で、以前にテキサス州サンアントニオで参加した本の寄贈行事で、新しい本を手にした子どもたちを見た時の体験について触れました。

「本を手渡すことは、その子どもに自分が大切な存在であると感じてもらうためであり、そのように直接、クラブや一人ひとりのロータリアンが手渡すというのがロータリーなりのやり方」であるとし、「どうすればより平和な世界を構築出来るでしょうか。一人のロータリアンが一人の子どもに最初の本を手渡すこと。これこそその始まりです」

ロータリー・クラブは長年、飢餓、貧困、疾病、非識字など、紛争の原因となる問題に草の根レベルで取り組むことによって、平和の実現に尽力してきました。また、ロータリーは2002年からロータリー平和センター・プログラムを開始し、国際的に活躍出来る平和構築者の育成を行っています。ロータリー・クラブは毎年、60名までの平和フェローを選考し、フェローは世界中のロータリー平和センターで平和と紛争解決の分野における修士号または専門能力開発修了証の取得を目指しています。

記事： Arnold R. Grahl

次回《3月1日》の卓話予定

イニシエーションスピーチ

高瀬 伸一 会員